

- 東大阪市学校教育基本目標
すべての子どもに生きる喜びとあすをつくる力を
- 東大阪市学校教育重点目標
 - 総合的視点に立つ教育の推進
 - 人間尊重に徹した人権教育の実践
 - 信頼に応える学校園経営
 - 学校園・家庭・地域の協働

不審者侵入訓練の実施

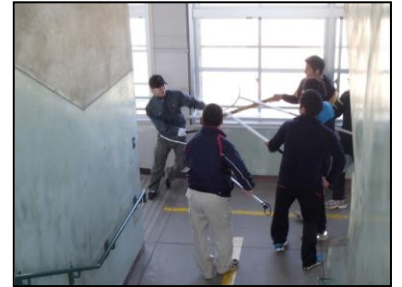
本市の学校園では、校園内に不審者が実際に侵入したことを想定し不審者侵入訓練を実施しております。

また、防犯教室を実施し子どもたちや教職員の安全に対する意識の向上、子どもたちの危機予測・回避能力の向上を図っています。

さらに、不審者等に関する情報共有では、大阪府警察本部の安まちメールによる情報共有を推進しております。

しかしながら、子どもの安全確保には学校、家庭、地域との連携が不可欠です。そのため、愛ガード運動協力員の方々、PTAの方々には、通学中の事件・事故防止のために、地域での見守り活動等にご協力いただいております。

今後も子どもたちの安全確保の取り組みにご理解とご協力をお願いいたします。



「小学校における外国語活動の充実」にかかる縄手南小学校公開授業

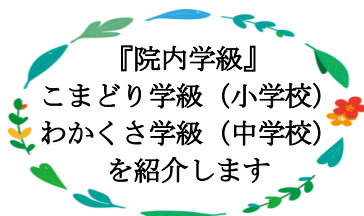
1月31日(火)に、縄手南小学校において「小学校における外国語活動の充実」にかかる公開授業が実施されました。

縄手南小学校では、全学年において昼休み後の15分間に、大阪府のDVD教材『DREAM』を活用したモジュール学習を行っています。子どもたちが担任の先生と一緒に、リズムにのって楽しみながら英語に親しんでいる様子を見た参加者からは、「自校でも活用してみたい」という感想が多くありました。6年生の公開授業では、学級担任が中心となった授業が展開され、わかりやすい英語とジェスチャーで、子どもたちがどんどん前向きになり、積極的に英語を使って、笑顔でコミュニケーションをとる姿がみられました。研究協議の冒頭には、児童へのインタビューがあり、駅で話しかけられた外国人に対して対応できた経験や、英語の力を活かした将来の夢を聞くことができました。

実践報告では、「前向きな児童」「学校全体」「担任主体の授業づくり」を柱に外国語活動を推進していく中での児童・教員の変容について報告されました。「これからの小学校英語教育について」と題した講演では、小学校での外国語活動の教科化が打ち出される中、取組みを進めるうえでの悩みや課題を解決していく効果的な手法等について、共有することができました。学校全体での取組み体制を振り返るための実りある交流会となりました。



地方独立行政法人市立東大阪医療センターにある『院内学級』について



入院期間中の小・中学生に教育を受ける機会を提供するために、本市では地方独立行政法人市立東大阪医療センター内に『院内学級』（小学校：こまどり学級・中学校：わかくさ学級）を設置しています。同センターに入院中の小・中学生は主治医の承認が得られれば、誰でも入級できます。入院による学習の中断等についての不安を軽くし、治療に専念できるという効果も期待できます。

同センターのホームページ内の『院内学級のご案内』も御覧ください。

※『院内学級のご案内』（<https://www.higashiosaka-mc.jp/service/outpatient/school/class.html>）

※「東大阪市立総合病院」は「地方独立行政法人市立東大阪医療センター」に名称を変更（平成28年10月より）

※入級の際には、意岐部小学校・意岐部中学校の在籍となります。詳しくは以下の学校にご相談ください。

【こまどり学級】意岐部小学校：06-6781-2900

【わかくさ学級】意岐部中学校：06-6788-1875

病気・怪我を治療することがまず大切ですが、同時に入院生活に耐え抜く精神力を持ち、健康の回復に取り組むとともに、自らの可能性を伸ばしていくことも大切です。そうしたことから、主治医の承認のもとに学習を進める「院内学級」を設置しています。教科書や教材は、いままで学校で使用していたものを使って学習するので、入院中に学習が遅れるなどの心配もなく、退院してからの学習のつながりがとてもスムーズです。また、院内学級の教室まで行けない子や、病室から出られない子には、病室での学習指導もしています。

入級をする際には、入級願いなどの書類を書きいただきます。

詳しいことは、担当の医師か看護師さんにおたずねください。その他学級の生活や学習についての相談は、院内学級の担任まで遠慮なくおたずねください。

院内学級では、病院側のご協力と深いご理解を支えに、

- 楽しい雰囲気の中で、気持ちの安定を
- 一人ひとりの子どもたちの病気の状態を考えた学習を
- 病気に負けない強い子どもをめざしています。

院内学級の様子です



ICT機器を活用した布施中学校（12/9）・桜橋小学校（1/25）の公開授業について

今年度、ICT活用研究指定校として、普通教室に、ウインドウズタブレットパソコンとデジタル教科書、電子黒板機能付き超短焦点プロジェクターとスクリーンを常設した布施中学校と桜橋小学校に公開授業を行っていただきました。12月9日の布施中学校では、『一人ひとりの学びをつなぎ、深め合う授業の創造 ～効果的なICT機器の活用に向けて～』を研究テーマとしての取り組みを、桜橋小学校では、『ICTを活用した、今後の授業のあり方について』を研究テーマとして取り組んでいただきました。

今後、誰もが日頃から使え、より短い時間で効果的に、全員に、必要な知識を定着させるための機器活用やアクティブ・ラーニングのための活用等ができるように、小・中学校の普通教室に、電子黒板機能付き超短焦点プロジェクター・タブレットパソコン・実物投影機の常設をめざしていきます。

布施中学校の授業の様子です。



桜橋小学校の授業の様子です。



～参加者のアンケートより～

・ICTを活用することで、口頭や図を用いて説明するよりも時間を短縮でき、考察や推論することによって深める時間を確保できるという点を学ばせていただきました。ぜひ、自分の授業でも今より積極的な活用に取り組むとともに、校内での活用推進にも力をいれていきたいです。

・視覚化することにより、支援の必要な児童にも優しい授業が実現するなあと感じました。ユニバーサルデザインの視点で全ての子どもたちの理解を深め、学力の底上げにもつながると思いました。